

G3 のツイッター その55

烈剛河内 竹井 保満

「夕焼け小焼けで日が暮れて、山のお寺の鐘が鳴る～お手々繋いで皆帰ろ、カラスと一緒に帰りましょ～」

幾つかの台風の被害を被った初秋も過ぎ、夕焼けの美しい季節をむかえました。標高300メートルの私の住处から見る夕焼けは素晴らしく、淡路島に日が沈む頃に、周囲に散在する灌漑用の池の水面が黄金に輝き、金剛葛城山に懸かる雲も金色に輝きます。夕焼けの歌に出てくるカラスが、目の前を羽音を立てて時に急ぎます。カラスが地上で生ごみをあさるのはよく見ますが、目と同じ高さで三々五々と素早く羽を動かして飛ぶさまは初めてなので興味深く見えています。

ヒトは、鳥が飛ぶほどの早さで手足は動かす事が出来ません。

1861年ドイツのバイエルン州で始祖鳥の化石が発見され鳥の先祖とされていますが、生物学者によりますと、始祖鳥は羽ばたく事が出来ず、ただ滑空するだけだったそうです。なぜ、鳥が早く羽ばたいて空を飛ぶ事が出来るように進化したのか、チャールズ・ダーウィンに聞いてみなければ分かりませんが、大変な進化を遂げたものです。私の雑学ノートの中に、鳥には肺の他に気嚢と言う空気をためる肺よりも大きな袋を9個も持っており、その袋を使って空気を吸うときも吐くときも新しい空気を吸入出来る様になっているのです。

鳥は飛ぶとき大変なエネルギーを使うので、大量の酸素を送るための脈拍も大変な速さです。鶏の脈拍は200～360、カナリヤは300～500と言われています。8,000メートルのヒマラヤを酸素マスク無し、防寒着なしで超えるアネバツルやコクマルガラス、そして、長距ランナーの渡り鳥、シベリヤから日本にやって来る渡り鳥など運動機能の凄さに驚かされます。

私も肩の手術をして半年に成ります。8割ぐらいは回復しましたが、思い切りトレーニングが出来ません。親から頂いた体に安易にメスを入れるのは本当に考えものです。

ベランダでカラスの羽ばたきを羨みながら、巡回のヘルパーさんの目を盗んで、元の動きが出来る様に柔軟体操に取り組んでいる夕焼け小焼けです。